

平戸市民病院

山口 博行

(横浜市立大学附属市民総合医療センター 2年次)

加曾利 江穂 (横浜市立市民病院 2年次)

田島 和昌 (長崎大学病院 1年次)



私たち3人は平戸市民病院で研修をさせていただきました。あふれるような自然、驚くほどおいしい魚介類など平戸の素晴らしさを感じるとともに制限された交通の便や医療資源についても身をもって感じる事ができました。そのような環境の中で平戸では超高齢化社会を意識した医療を実施しており、予防医療・総合診療の面では最先端なのではないか感じる程でした。訪問診療や訪問看護、出前講座など地域医療の実態を実戦形式で学習をできたことは研修医生活の中で本当に記憶に残るものとなりました。ここで学んだ多くのことを私たちに今後の医療に還元できればいいなと思っています。このような貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

出前講座ではインフルエンザについて宝亀4、迎紐差の2地区で講話させていただきました。地区長さんの呼びかけもあり多くの人に聴講していただきとても嬉しかったです。住民の高い健康意識と地区での結びつきの強さを感じられました。近年TVなどにて健康番組が放送されることが増加し、市民の健康へ意識が向上しつつありますが、平戸市民病院では約30年前からこうした健康啓蒙活動が行われてきたとのことでした。時代に先んじた予防医学を感じ、自分たちでも実行するとういう良い機会になったと思います。



訪問診療では患者さん本人の状態を把握するだけでなく、生活環境からわかることや家族の精神状態なども評価することができるのが印象的でした。もちろんすべての患者さんを訪問診療するわけにはいきませんが、必要な患者さんをうまく見極めることで逆に

効率的な医療の実現が成せるのではないかと思います。地域医療ならではの医療スタイルを学び大都市での医療でどう応用できるかが今後の医療で求められることなのではないでしょうか。



健診では、主に腹部エコーをさせていただきました。受診者の方に事前に書いて頂いた問診票を元に話しながら、生活指導もさせていただきました。健診をする機会はこれまでほとんどなかったので平戸で初めてでしたが、予防の重要性を実感する良い経験となりました。エコーも上達できたと思います。

生月病院

木室 里依子 (長崎医療センター 1年次)

生月病院で1カ月研修させていただきました。1カ月間研修し、一番感じたことは患者さん、家族、近所の方、医療者の間に近いコミュニケーションがあるということでした。家族に限らず、近くに住む住民が患者の体調を気にかけ、〇〇さんは元気そうと自分の受診日に話したり、時には受診を付き添ったりしていました。また、医療側からは患者のADLや生活環境に合わせた医療が提供されていました。また、生月に住む人々の優しさに触れることができ、1年で一番寒い2月でしたが、1年で一番人々の温かさに触れた1カ月でした。

地域密着型の医療を外来や健診、訪問診療等で学ばせて頂きました。地域研修で学んだ、患者のADLや生活環境まで視野に入れた診療ができる医師を目指し今後も頑張っていきたいと思います。1カ月間貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



平成27年2月28日

発行：ながさき県北地域医療教育コンソーシアム

<http://hekichi-byoinsaisei.net/agonet/>